

総合研究 生物多様性ホットスポットの特定と形成に関する研究 終了時評価			
意義・目的の妥当性	<p>本総合研究は、生物標本に基づき、さらに分子系統学的手法なども駆使して、日本国内の生物多様性ホットスポットを特定し、その形成や変遷の歴史を明らかにすることを主な目的とするものである。その成果は系統学的多様性も含めて日本列島の生物多様性の実態を明らかにし、さらに保全活動に寄与することは明白であり、大きな学問的意義を持つ。国立科学博物館が中心となって推進すべき課題の一つであり、意義・目的は妥当なものである。</p>		
実施体制の妥当性	<p>植物部門 12 名と維管束植物の古生物学者 1 名を核とし、動物部門 3 名と古生物学者植物、特に維管束植物を研究対象とする研究者が中心になっているが、これは生物多様性ホットスポットの基準の一つとして維管束植物の固有種数が挙げられていることから妥当であり首肯できる。一方で、動物部門と古生物部門の研究者を配した構成は分野横断的研究という観点から妥当である。</p>		
目標の到達度	<p>維管束植物及びコケ植物については多数の個別論文だけでなく、『日本の固有植物』（東海大学出版会）の出版や生物多様性地形図の作成と展示など、当初に期待された以上の成果が得られ、非常に高く評価できる。菌類や動物についても同様の地図が作成でき、あるいは植物との比較ができれば格段に興味深かったと考えられる。また、ホットスポット地域について化石の情報から歴史的な変遷についての情報が得られると面白かったと思う。これらの部分で十分な成果が得られなかったのは残念であるが、期待以上の成果が得られた部分と、期待通りの成果が得られなかった部分を総合すると、少なくとも当初の目的をほぼ達成できたと評価できる。</p>		
総合評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td> <p>S：大変優れた成果をあげた。 A：目標通り達成されている。 B：目標達成に近い実績を上げた。 C：目標は達成されなかった。</p> </td> </tr> </table>	A	<p>S：大変優れた成果をあげた。 A：目標通り達成されている。 B：目標達成に近い実績を上げた。 C：目標は達成されなかった。</p>
A	<p>S：大変優れた成果をあげた。 A：目標通り達成されている。 B：目標達成に近い実績を上げた。 C：目標は達成されなかった。</p>		
全体コメント	<p>本総合研究は、総体として当初の目標は達成された。特に維管束植物分野において優れた成果を上げた。日本の生物多様性ホットスポットの特定は、学問的意義に加え、社会的・政策的観点からも重要な課題である。今後、標本資料とデータベースの充実により、更なる進展が期待でき、またより多くの生物群での研究の進展を期待する。</p> <p>なお、多様な分類群において、日本の各地域から均一に、かつ十分な数の標本が採集されることは期待できるわけではないが、そのような状況でも国内のホットスポット地域を特定できる方法の開発も期待される。</p>		